



令和7年12月15日(月)

静岡大学教育学部

附属静岡小学校

2年学年だより 冬休み、1月号

「先生は、持久走何周いった？」～今、熱を帯びているもの～

朝晩の冷え込みが厳しくなり、日中の寒暖差が大きくなってきました。朝の冷たい空気の中、運動場では様々な学年の子どもたちが自己の走力向上に向けて、懸命に走っている姿があります。つながりの子どもたちもその輪の中に入り、走ることを楽しみながら、自分の走りと向き合っています。ひとしきり走り終え教室に帰ってきた子は、顔をほてらせながらもどこかすがすがしい表情で「昨日は26周だったけど、今日は34周走ってきた！」と報告に来ました。今日の自分が昨日の自分を超えたことに喜びと達成感を感じているのでしょうか。他にも「運動場って1周何メートル？160メートルってことは、3周なら…480mか！すごい！僕、480メートルも走ってるんだ！」と自分の走りを価値づけ、満足そうな表情を浮かべていた子もいました。そして手洗い場で出合ったある子には、「先生は持久走何周いった？」と当たり前のように尋ねられ、長距離を走ることが苦手で自主的な走りに参加していなかった私は、非常に困惑していました。苦し紛れに、「ち、ちなみに、○○さんは合計でどのぐらい走ったの？」と逆質問をしてみると、「僕はね、合計で51周！」と誇らしげに教えてくれました。その時、何だか子どもたちと同じ楽しみを共有できていない自分に寂しさを感じると共に、今この子たちの中で熱を帯びているものに、遅れをとることなく同じ温度感で浸らないと！でなければ置いていかれる！という焦りも感じました。今、「走り」と向き合う子どもたちを見ていると、子どもたちの中では、「走ること」が体育の授業の中だけで取り組むものではなく、日常の一部となっているのだと感じます。純粋に走ることを楽しみ、前向きに励んでいる姿はもちろん、頑張って走っている自分、それによって成長を実感できている自分にやりがいを感じている姿もまた、美しいと感じます。持久走をきっかけに、子どもたちの「今」に目を向け、同じ温度感で思いを共有できることは、本当に尊いことであり、子どもを捉える上で非常に大切なことなのだと改めて考えさせられました。そして今、つながりで熱いことといえば「つどい」に向けての活動も同じです。チームで動き出している1組では、早速「どうして話を聞いてくれないの？何で勝手に進めるの？納得していないのに」「このままじゃ、いいつどいは創れないと思う」と、思いのぶつかり合いが起こっています。しかしそれは、「つどいをよいものにしたい」「みんなで」創り上げたいという思いの強さであると感じます。つながりの子どもたちの本気が、沸々と沸き始め、より一層面白くなっていました。年明けも忙しい日々となりますのが、つながりの本気と熱量に負けじと、私たちも熱く支えていきたいと思います。冬季休業を経て、またパワーアップした子どもたちとの出合いを心待ちにしています。よい年末年始をお迎えください。

